

欧州紀行(10) サウサンプトン帰港そして地中海クルーズに

2023-6-23 池田良穂

7 日目、「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は北海を南下し、夕刻にはロッテルダムの沖合を通過して、いよいよイギリス海峡に入りました。

最後の夕食は、久しぶりの日本食もよいかと特別レストラン IZUMI でとろうとしましたが、フルブッキングで取れませんでした。このレストランでは 1 品ごとの有料料理ですが、イギリスのバカ高い日本食レストランに比べると料金はリーズナブルで、人気があるようです。

イギリス海峡では、他船との交差や反航も期待できますので、すぐに飛び出せるソラリウムのレストランでの夕食にすることにしました。ここは夕食時にテーブル予約が可能ですが、無料のメニューは航海中ずっと変わりません。ただ、ディナーのメイン料理だけでも 4 種類あるので、飽きることはありません。セルフサービスですが、ボーイさんの対応も丁寧なので気持ちの良いレストランです。しかも、窓越しに行き交う船も確認ができるので、シップウォッチングを愛する筆者にとっては便利なレストランで重宝しました。

食事の後、船尾のショーラウンジ Two 70 で、キャバレーというショーを観ましたが、なかなか迫力のあるショーでした。北欧の夏のクルーズでは陽が沈むのが遅いので、シップウォッチングを優先すると夕食後のショーはほとんど見るができなかつたので、逆に新鮮でした。

ショーが終わる頃、イギリス海峡の中でも最も狭いドーバー海峡が近づいてきました。まずバイキングラインの「バイキング・ビーナス」と反航し、22 時頃にはドーバー海峡横断フェリー航路と交差しました。ちょうどその頃に P&O クルーズの「ブリタニア」に追いつき、徐々に抜きました。まだ、日没時間ではありませんでしたが、地平線近くには雲が多くて一気に暗くなり始めました。

サウザンプトン港への帰港は、クルーズ 8 日目の朝 6 時とのことだったので、4 時前からプールデッキでのシップウォッチングを開始しました。船は既にワイト島の前を通過して、ソレント海に入りサウザンプトン港に針路をとっていました。前にはキューナードの「クイーンメリー2」が、後ろには P&O クルーズの「ブリタニア」が続いていました。

1 週間のクルーズを終えて、「アンセム・オブ・ザ・シーズ」はシティ・クルーズターミナルに 5 時すぎに着岸しました。

続けて、同じ船での 2 週間地中海クルーズへの船出です。キャビンが変わることになっていたのですが、どのようにすればよいか心配していましたが、部屋に案内が届き、そのまま船に留まっていられることが分かりました。船内で、次のクルーズのチェックインができ、荷物もルームスチュワード(今はステートルーム・アテンダントと呼ばれているようです)に移動してもらうことができました。



ソラリウムのウィングには防風ガラスもあって、風を気にせずに船の写真撮影ができます。



ドーバー海峡が近くなるころ、クルーズ客船「バイキング・ビーナス」と反航しました。



前方に P&O クルーズの「ブリタニア」の姿が見え、その航路と直角に英ドーバーとフランスを結ぶドーバー海峡横断フェリーが交差していきました。DFDS のフェリーですが、船名は確認できませんでした。



「アンセム・オブ・ザ・シーズ」は、ゆっくりと「ブリタニア」を追い越していきました。



夜 10 時を過ぎて夕闇が迫る中、3 隻のドーバー横断カーフェリーの姿を見ることができました。



ドーバー海峡では灯台船が現役で活躍していました。



夜明け前にワイト島のカウズの前で大きく旋回してサウサンプトンに針路を切りました。



前には「クイーンメリー2」が、後ろには「ブリタニア」が続いていました。



停泊する「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の横をコンテナ船が出入りしていきました。